

自衛隊の戦争準備はどこまでできているのか ～平和・人権の会総会と記念講演の案内～

多くの国民が反対し、ほとんどの憲法学者が憲法違反だと指摘したにもかかわらず、一昨年の9月19日、戦争法が強行採決され、自衛隊の海外における戦闘任務が現実のものとなりました。今日の中国・北朝鮮問題をどう捉え、沖縄本島の基地問題や南西諸島への自衛隊配備、そして紛争やテロとどう向き合うべきでしょうか。かつて陸上自衛隊のレンジャー訓練を受け、戦闘のリアルを体験し、PKO法による武器を持った海外での任務は契約に違反すると依願退職した井筒さんに“ホント”のお話を聞きます。会員の方だけでなく、多くの方が参加されることを呼びかけます。

皆様のご来場をお待ちしています。

◇◇記念講演は会員でない方も大歓迎・入場無料◇◇

平和・人権・教育と文化を考える会

連絡先 平良方 (Tel 0438-98-7417)



2017年度 総会・記念講演

日時 6月25日(日)午後1時半より

場所 木更津市中央公民館・会議室(3階)

内容 I 2017年度総会(午後1時半より)

II 記念講演(午後2時～4時終了予定)

安保法制のもと、自衛隊の戦争準備はどこまでできているのか
～中国・北朝鮮脅威論から考える～

講師 井筒 高雄 さん

【井筒高雄(いづつ・たかお)さんプロフィール】

1969年生まれ。東京都出身。1988年陸上自衛隊に入隊。1991年レンジャー隊員となるが、1993年PKOによる海外派兵は契約違反と依願退職。1997年大阪経済法科大学卒業後、2002年から兵庫県加古川市議。2014年、実名で元自衛官の立場から戦争のリアリティと戦争コストについて発言。共著に「安保法制の落とし穴」(ビジネス社)、著書に「自衛隊はみんなを愛してる!」(青志社)がある。2017年6月からベテランズ・フォー・ピース・ジャパン 代表、安保違憲訴訟の会・東京原告団共同代表に就任。全国で自衛隊を守る、若者に戦争させない講演活動をしている。